

あさひの日だまり

令和6年 2月 2日 (金)

NO.36

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～能登半島地震の被災者に皆様へ～

全校で募金活動を行いました

最近ニュースを見ていて、1月1日午後4時10分ごろ発生した能登半島地震は、地震の規模を示すマグニチュードが7.6であったということを知りました。阪神・淡路大震災を起こした地震や熊本地震のマグニチュードは7.3だったので、それよりも能登半島地震の方が規模が大きかったということです。当然、災害の範囲や被害も相当のものであることが想像できます。また、報道内容を見てみると、被災された方の平均の年齢が高齢のように感じられます。そういったことから、災害復旧が困難に直面しているのではないかと心配になります。自分では何もできない無力さを感じながら、一刻も早く上下水道や交通網が復旧してくれますようにと祈っています。

ボランティア委員の顧問の先生が、「役員の児童が募金をしたいといっているのですが、委員のみんなに聞いてみて賛成を得られたら募金をしてもいいでしょうか」と声をかけて下さいました。何もできない自分の無力さを感じていた時でしたので、「それはいいですね」とすぐに返事をしました。そして、委員の皆さんにぜひ聞いてみて下さいとお願いをしました。しばらくしてから顧問の先生が「委員のみんなが募金をしようと賛成してくれました」と伝えてくれました。

委員の皆さんの頑張りと、全校の児童の皆さんの協力で昇降口前で募金活動が行われました。きっとお年玉の一部を貯金箱の中から取り出して持ってきてくれた児童もいたことでしょう。ご家族にお願いして募金を持ってきてくれた児童もいたと思います。職員室にも職員用の募金箱を用意していただきました。本当にわずかな額ですが私も募金をさせてもらいました。

1週間の募金の結果、61,229円が集まりました。ボランティア委員会の顧問の先生が金融機関へ振り込みをして下さいました。

子どもたちが自分で募金したという経験は「今、被災地はどうなっているのかな」という関心に必ず結びつきます。関心を寄せたらといって被災地の復興の何かに役立つわけではないかもしれませんが、1つのことにたくさんの人の思いが集まるということは、そこから何かが起こる可能性を秘めています。「自分にできることはないかな」という意識が芽生えます。募金に込めた子どもたちの思いが、この先も被災地への関心という形で継続してくれることを願っています。

～最後のクラブがありました～

指導者の皆さん本当にありがとうございました

1日の木曜日に最後のクラブ活動がありました。活動を終えた後、指導者の皆様に時間をいただいて、会議室で意見交換の時間をとっていただきました。「技術的なこともだけれど子どもたちの思いやりに触れることができて本当に楽しい時間を過ごさせてもらえました」「ジャンケンで負けてこのクラブに来たといっていた子が、最後はこのクラブで楽しかったといってくれてよかった」「できたらいろいろなクラブを経験させてあげたいので、途中で入れ替えをしてあげたらどうだろうか」等いろいろなご意見をいただきました。「クラブとても楽しかったです！」と言いながら帰っていく子もいて、子どもの希望するクラブが指導者の皆さんのご協力のおかげで開設できて、指導者の皆さんには

感謝の言葉しかありません。

来年度は、今年のクラブをベースにしてもう少しクラブ数が増やせたらいいなと考えています。子どもたちにアンケートをしてみたり、学校の周りで技術を持っておられる

詰将棋で勝負



寒さに負けずドッジボール



方などを探してみたりして、子どもたちが楽しそうにクラブ活動に取り組んでいる姿を想像しながら今から来年度の準備を進めたいと思います。

～みんなの笑顔願って～

あさひの活動で保育園訪問

6年1組はあさひの時間に「みんなが笑顔になれる活動」に取り組んでいます。この日は平出保育園を訪問して年長クラスの園児の皆さんと笑顔になれる活動を行いました。手作りの紙芝居やレクレーションを用意して保育園を訪れた6年生に園児の皆さんは興味津々でした。

6年生は、年長の皆さんが入学してくるときにはこの学校にはいなくなる学年です。入学してくる子どもたちに卒業してくる子どもたち、両方の子どもたちを目の前にして何だか子どもの成長のすごさを感じました。

6年生の皆さんは「小学校が楽しみだな」という新入生へすばらしいプレゼントを残してくれました。

